

サポステ支援対象者向け 指導技法ガイドブック

-
1. 指導技法の開発について
 2. 開発教材の構成
 3. 開発教材の使い方
 4. 学習テーマの設定
 5. 開発経過・開発組織

1. 指導技法の開発について

1-1.目的

■サポステ支援対象者が職業人として生きていく上でのエッセンスを学ぶセミナープログラムを開発し、ものづくりマイスターの指導の手引きを作成する。

1-2.開発コンセプト

- 職業人として生きる上で必要なエッセンスを取り上げる
- サポステ支援対象者が関心と興味を持てる魅力あるセミナープログラムとする
- ものづくりマイスターが指導しやすいテーマ設定とする
- ものづくりマイスターが指導できるように教材他を構成する

1-3.開発教材の特徴

- 「職業人セミナー」の延長線上で、ものづくりマイスターがつながるようにした。実際に道具、体験、作業を入れながら指導することを想定している。インターンシップも視野に入れてテーマを設定する。
- 指導内容をパッケージで提供して、ものづくりマイスターが容易に実施出来ることをめざしている。
- 指導時間は60分～120分程度とする。主な展開は「見せる、やらせる、振り返る」とした。
- 講話と体験実習（本格実習ではない）を含むことを想定した。

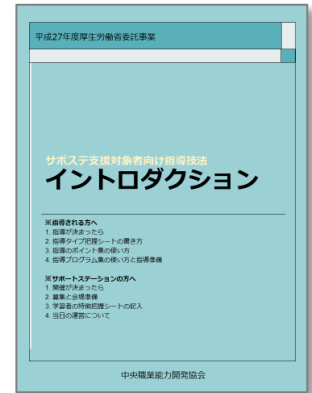
1-4.指導の対象

■サポートステーションに通う就業直前の若者たちとし、就職に際し役立つ内容とする。

2. 開発教材の構成

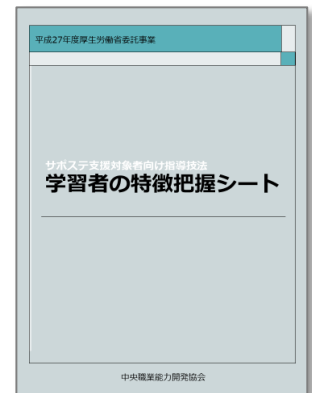
①イントロダクション

- 開発教材全てについての使い方、注意点などをまとめたもの。これによって教材の全体を把握する。
- 指導者及び関係者が予め把握しておくべきことを示した。準備や打ち合わせなどで役立つ。



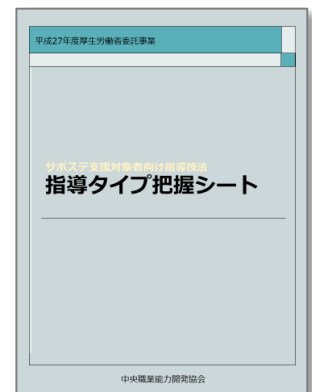
②学習者の特徴把握シート

- 指導する学習者の特徴を把握するための調査用紙である。
- 予めサポートステーションの職員の方々に依頼して、参加者の特徴を記載するようにしている。
- この内容を指導者は指導の前に読み、③及び④によって、指導の方針を決めておくと良い。



③指導タイプ把握シート

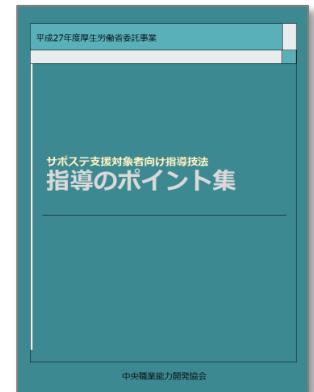
- 指導者であるものづくりマイスターが、日頃どのような教え方・考え方で指導しているかを把握する調査用紙である。
- 予め指導者に記入してもらい、②及び④によって指導の仕方・方針に反映させることを目的にしている。



④指導のポイント集

■指導の方針を立てる、進め方の検討に役立つアドバイス集である。

■「学習者の特徴把握シート」、「指導タイプ把握シート」の結果を受けて指導の組立てをするのに役立つ。

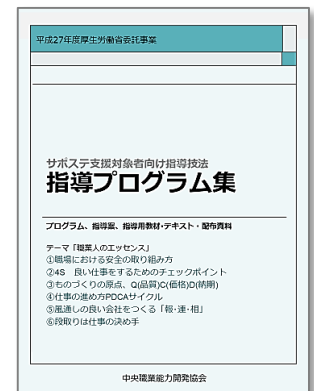


⑤「職業人のエッセンス」プログラム集

■「職業人のエッセンス」を指導するためのプログラム、指導案、指導用教材（テキスト・配布資料）で構成している。

■テーマは次の6テーマで構成している。指導時間はテーマ毎に90分～120分程度である。

- ①職場における安全の取り組み方
- ②4S 良い仕事をするためのチェックポイント
- ③ものづくりの原点、Q(品質)C(価格)D(納期)
- ④仕事の進め方PDCAサイクル
- ⑤風通しの良い会社をつくる「報・連・相」
- ⑥段取りは仕事の決め手



⑥トライアル記録ビデオ集

■指導者の参考とするため、本教材開発を使ってトライアルした指導場面の映像記録である。

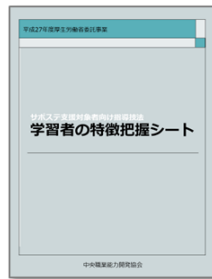
■指導者は予め見ておくと参考になる。



3.開発教材の使い方

(1)サポステスタッフは参加予定の学習者について、②を記入する

②学習者の特徴
把握シート



(2)指導者は①で使い方を見ておく

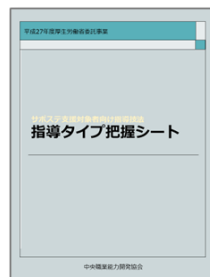
(3)指導者はあらかじめ学習者の特徴を②によって把握しておく

①イントロダクション

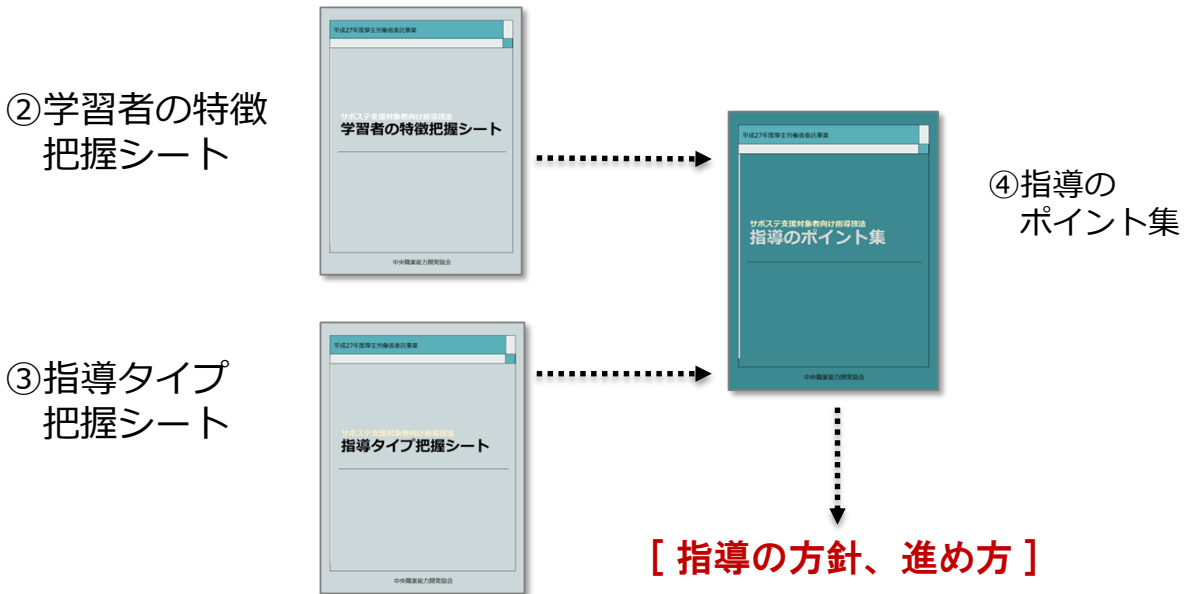


(4)指導者であるものづくりマイスターは③によって自分自身の指導の仕方、考え方を振り返る

③指導タイプ
把握シート



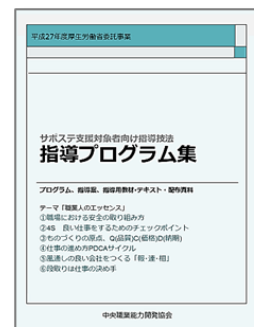
(5)指導者であるものづくりマイスターは②③を参照しながら、④によって今回の指導の方針、進め方を検討する



(6)指導者は指導の方針、進め方にもとづいてA)B),C)を使用して指導し、D)によって評価する。⑥トライアル記録ビデオ集は自分の指導に際して参考にする。

⑤指導プログラム集

- A) プログラム
- B) 指導案
- C) テキスト・指導用教材・配布資料・ワークシート
- D) 振り返りシート



⑥トライアル記録ビデオ集



4. 学習テーマの設定

■職業人のエッセンスを学習することは、彼らが就業し、職業生活を送る上で役立つ。このテーマを学習することで、企業的センス、現場的センスを身につけることを期待したい。

■今回、開発した6テーマは下記の理由によって選定した。

①職場における安全の取り組み方

=ものづくりでは何よりも安全に作業することを基本にしている。安全の考え方や、見方を身につけることで職場に入りやすくなる。

②4S 良い仕事をするためのチェックポイント

=ものづくり職場では4Sが浸透している。これは常識とされ、この習慣を持つことで、職場で役立つだろう。

③ものづくりの原点、Q(品質)C(価格)D(納期)

=製品の最も大切なことは適切な品質、価格、納期にあり、これを達成するにはどうすればよいか知ることが有益である。

④仕事の進め方PDCAサイクル

=ものづくりの進め方は一般にPDCAサイクルで仕事をするのが基本で、予め知ることによって能率良く仕事を進める事が出来る。

⑤風通しの良い会社をつくる「報・連・相」

=新人に必要なことは上司・同僚とのコミュニケーションにある。とりわけ、報告、連絡、相談は必須事項といえる。

⑥段取りは仕事の決め手

=ものづくりでは段取りを知っていると知らないとではその作業の仕方が変わる。職場に入る前に、これを知ることにより早く職場になじむだろう。

5.開発経過・開発組織

5-1.開発経過（概要）

(1) 委員会

第1回委員会（平成27年7月14日）

第2回委員会（平成27年11月6日）

第3回委員会（平成28年3月14日）

(2) ワーキンググループ

第1回ワーキンググループ（平成27年 8月15日）

第2回ワーキンググループ（平成27年 8月19日）

第3回ワーキンググループ（平成27年 9月25日）

第4回ワーキンググループ（平成27年10月27日）

第5回ワーキンググループ（平成27年12月 5日）

第6回ワーキンググループ（平成28年 1月23日）

第7回ワーキンググループ（平成28年 2月12日）

(3) 試行実施

第1回試行実施（平成27年12月5日）

第2回試行実施（平成28年 1月23日）

5-2.開発組織

ニート・フリーター向け指導技法の開発委員会 委員名簿
【五十音順、敬称略、○印は座長】

井村	良英	認定特定非営利活動法人 育て上げネット 若年支援事業部 部長
太田	左武朗	一般社団法人 静岡県技能士会連合会 会長
澤	武一	芝浦工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科 准教授
○塩田	泰仁	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 名誉教授
深町	殊由	独立行政法人 労働政策研究・研修機構 キャリア支援部門 副主任研究員
森	和夫	株式会社 技術・技能教育研究所 代表取締役

ニート・フリーター向け指導技法の開発委員会 ワーキンググループ
委員および開発教材の執筆者名簿
【五十音順、敬称略、○印は座長】

井村	良英	認定特定非営利活動法人 育て上げネット 若年支援事業部 部長
澤	武一	芝浦工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科 准教授
○森	和夫	株式会社 技術・技能教育研究所 代表取締役